




10/13 受

社長	常務	課長	係長	隊長
				

平成24年10月12日

報告書

松友社長 殿

所属 工220部工215才塾(物隊)
氏名 千種 正道 

(件名) 県立舞子高校
「環境防災科」見学について

記

10月12日(金) 13:00~14:30の予定で県立舞子高校「環境防災科」を松友社長等 総勢12名で見学の為訪問した。学校へ到着後、13:00に学校衣接室において校長先生や教頭先生に「環境防災科」は全国で初めて平成11年に設立され、市民のリーダーとして活躍する人材、防災を理解し災害ボウエウイヤ防災行事に参加し防災について持ち続ける人材の育成を教育理念としておりまると、概略の説明を受けた。

続いて13:10~13:35まで環境防災科3年生の教室で防災担当の諏訪先生から生徒のボウエウイヤ活動、主に東日本大震災について全校あわせて活動した事、仙台まで17時間かかったバスで移動した事や、体育館などで寝泊まりした事など大変な苦労があった事や、被災者とのコミュニケーションを通じて今でも文面や電話などで近況報告し、つながりを持ち続けている事などのお話しがありました。

13:35~14:30は同じ教室で生徒と一緒に授業に参加させて頂きました。この授業の中で、この学科に入学した目的、今まで感動したこと、卒業後の進路について7~8名程度の生徒からお話しがありました。消防学校へ体験入学が来ること、お年寄り一人には出来ないとか



救助活動の様子をテレビで見ると感動したからとか、又卒業後は消防士や警察官、福祉関係や看護師に就いて社会や市民の役に立ちたいとか、その目的意識の高ゆえにはたまたま驚かされるばかりでした。そしてボランティア活動を通じて防災のりえ被災者とのコミュニケーションの大切さなどを体験出来たこと、又募金活動などで地域社会に貢献出来たことなどを聞き、この若年で真剣に社会貢献、地域貢献などを考えているのを見ると、このような高校や大学の学部などが全国と出来て、日本や世界でのボランティア活動国際支援などで活躍出来る日本人の多くを伸ばしてほしい。

また我々も防犯、防災のつらみの警備員として日頃非常に高い目的意識を持ち高校生に負けないように勉強や業務遂行を心がけてほしいとつくづく考えさせられました。

最後に、舞子高校 環境防災科 3年生の皆様、校長先生や教職員の皆様、今日は貴重な時間をとっていただき、本当に良い勉強をさせていただきました。ありがとうございました。

またこの見学を計画されました社長 松田先生 ありがとうございます。

以上

社長	常務	課長	係長	隊長
				


平成 24 年 10 月 18 日

報告書

松友社長 殿

所属 CL 甲南

(件名)

氏名 大森 庄次 

舞子高校・環境防災科見学

記

日時：平成 24 年 10 月 12 日 13:00 ~ 14:30

参加者：松田 県議・カメラマン・松友 会長・松友 社長・大西 係長・陽谷 隊長
干穂 隊長・宮崎 隊長・谷村 隊長・高田 隊長・浅井 隊員・大森

13:00より 諏訪 先生より 環境防災科の活動・授業内容の説明。

阪神・淡路震災後、全国唯一、防災専門学科を設立され、先車時
大震災の被害を受けた現地の同科の生徒及び希望者により 4週間に
渡り ボランティア活動を実施した事。

13:30より 3年8組 環境・防災科の授業見学。

冒頭 生徒による 入学の動機・この学科で学んだ事・卒業後の進路の発表
ランダムに指名された中 全員の生徒が的確に要点を発表するの
間にて、この学科の生徒のすばらしさに感動しました。

消防士・警察官・保育士・海外ボランティア活動他、是れは此 目的意識を
持って入学し、夢に向かって、日々勉強し、人間形成を行なっている。諏訪 先生
の指導力に感心するとともに、私達も災害時には、是れを、この市民として
出来る事、しなくてはならない事を考えさせられる 1時間30分の 見学でした。
最後に、このように有意義の時間を作って頂いた事に感謝致します。



報告書

(No.)

舞子高校「環境防災科」見学 (平成24年10月12日 13:00~15:00)

甲南病院警備隊 浅井 雅文

丸石隊長の欠席で研修に行かないか、と連絡有り。舞子高校「環境防災科」を見学に行くという。こんなチャンスは滅多に無いので喜んで参加する。集まった人たちは、県会議員の先生、会長、社長、係長、各隊長、と私の総勢12名、錚々たるメンバーに私だけ場違いな感じをうける。後ろの方で控え目にしておこう。

現場に着くと校長先生、あとから環境防災科担当の諏訪先生から学科の概要の説明を受ける。環境防災科の設立 平成14年4月(今年で11年目)、各学年1クラスで40名在籍 総120名、全国で唯一の学科、目的は社会環境と自然環境から防災を考え、震災の教訓を語り継いでいく。視野の広い生徒を作る。市民のリーダーとなる人材を育てる。等々。

ここで疑問が生じる。日本全国そこら中、災害が起こっているのに何故、この様な学科が広がらないのか? やはり運営面かな、ボランティアで動こうにも資金が必要、限界があるのかな、国、自治体の支援が必要だが、この御時世難しいかも知れない。

環境防災科3年生の授業を観覧する。入学動機、現在の心境、卒業後の進路等についてひとり、ひとり、スポット的に当てて発表させるやり方をとられた。指名された生徒の堂々とした態度、発表の内容に驚く。1人目、2人目と続き11人の生徒が発表しましたが皆、我々を意識せず、自分の意見をしっかりと発表していた。これが高校3年生か? 自分の過去と比べる。違い過ぎる。凄いと思う。全員が眩しく映る。でも少し待てよ、これは訓練されている姿ではないか、これが教育方針ではないか、という事。ボランティアで何かをしようとする人は消極的では絶対ダメ、積極的でなかったら、他人の手助け等出来ない、積極的でしかも、コミュニケーション力を身に付ける事が大事。そういう教育をしているのだろう。3年生なのだから完成度も高いはず、色々な所から来られる視察の対応は3年生がしているのだろう。眩しく見えるはずだ。私では到底かなわない。1年生の授業が見たかったなあ。防災と防犯は違うものだけど、あの子達から学んだ事は多い。豊かな心を持っている。あの子達はこの学科での3年間を大切にこれからの人生を歩んで行くだろう。私も積極的に人と人の繋がりを大切に頑張っていこうと、あらためて思いました。今回、この様な研修の機会を与えていただきまして有難うございました。

以上

社長	課長	係長		隊長
				

平成 24年 10月 17日

報 告 書

松友社長殿

(件名) 県立舞子高校「環境防災科」

の見学を終えて

所属 星電社LABI三宮警備隊

氏名 宮崎 延弘



記

県立舞子高校の環境防災科とは、いったいどのようなことを、学んでいるのだろうと、この見学の話聞いてから、非常に興味がありました。

最初に案内された応接室での浅井校長先生の話の中で、環境防災科の授業で最も力を入れているのが、コミュニケーション能力を高めることであると言われたことが、よく理解できませんでした。しかし、そのあとの諏訪先生の話聞き、避難生活を送るには、コミュニケーション能力は不可欠であり、そしてそれをサポートするには、より高いコミュニケーション能力がいることを、教えられました。その後の環境防災科の授業では、指名された生徒たちがみんなの前で臆することなく堂々と話す姿を見て、非常に良く学んでいる、将来防災分野で市民のリーダーになるだろうと、思いました。また、「環境防災科」に教科書はない、さまざまな科目が関わっている。日常的に社会に参加し、防災の専門家ではなく、市民のリーダーを作る。そして、救助隊が救えるのは2%に過ぎない、自分の身は自分で守る、地域で守るしかない、と言われた諏訪先生の言葉が、非常に印象に残りました。

環境防災科の高校生の熱い思いを、肌で感じることでできた、素晴らしい見学であったと思います。このような機会を与えてくれたことを、深く感謝いたします。我々警備員もできることがたくさんあります。それをこれからも、検証していきます。

以上

社長	課長	係長		隊長
松友				

平成24年10月14日

報告書

松友社長 殿

(件名) 舞子高校環境防災科
見学の件について

所属 警備課
氏名 大西幸男 (印)

記

今回、舞子高校環境防災科見学に参加させて頂き、ありがとうございました。

さて、この見学で感じた事は、今の若者達(無気力・無感心・自己意識)の中にも、自分の考え(今、自分の成すべき事は何か)・目的意識(将来、何を成すべきか)をしっかりと持って、勉学に励んでいる若い人達がいるという事は、全てにおいて、弱体化して、現在の日本にとって、希望の光(魂)が育まれていると感じました。

又、環境防災の学習は、地域社会の防災に留まらずに、色々な分野に精通して、それをどのようにして生かしていくかは、コミュニケーション力である事を、改めて教わった次第です。

(人と人とを結ぶのは、誠意ある言葉の力=魂のある言葉)

警備の仕事も同じく、コミュニケーション力が必要であると思います。我々は警備業務を遂行するにあたり、お客様に対して協力を要請する立場にあるので、その事を念頭に置いて、日々、切磋琢磨して精進していかなければなりません。その為には、社員一人一人が、お客様の立場になって、物事を考え、目配り・気配り・心配りをしなから、コミュニケーションを円滑に、お客様から「ありがとう」と言われるような真心を込めた、プロとして誇れる良質な警備(安全・安心・サービス)を提供できる警備員にならなければなりません。

私自身、初心を忘れず、警備のプロであるというプライドを
持って、心新たに、頑張っていく所存でござります。

以上

社長	課長	係長		隊長
松友				富

平成24年10月15日

報告書

松友社長 殿

(件名) 舞子高校環境防災科
見学の件

所属 (RP) 機動巡回警備隊
氏名 宮田 茂樹 (富)

記

環境防災科見学に参加させて頂き、有り難う御座いました。
今年の24時間TVで、環境防災科の生徒が、東日本大震災の被災地で
取り組んだボランティア活動や被災地の学校、民家などを訪問し、多くの被災者と
交流している放送を見ました。生徒1人1人の考え方が立派で、感心をしていましたので
見学に行くことは、非常に興味がありました。最初にアサキ校長から同校の教育理念の
お話を聞かせて頂き、更に楽しみになりました。同科長 諏訪教諭は、何もなし
ところからの出発で11年間、過去の災害から学び、社会環境と自然環境から防災を
考え、生徒1人1人に防災を痛く、視野を広く、社会との関わりを深くし、一方向的に
伝えるのではなく、相手の気持ちを考えながらのコミュニケーション、目的意識を
持て、今自分に何か出来るかを考える教育、生徒達は、体験・行動することで、多くの
事を学び、人間的に成長している事、本当に素晴らしい教育だと感銘を受けました。
あの時、私も生徒になり、学びました。警備員として警備業務にあてはめて考える事も
大切だと思いましたが、私は1人の人間として、どうなりたいと見返り、そして反省を
しました。目的意識を持って、今自分に出来る事を一生懸命に取り組み、自分の力で
訂らす。相手の気持ちを考えながらのコミュニケーションを心掛け、多くの人達に勇気・
笑顔を届けられる人間、そして信頼される警備員になれるように、全身全霊で頑張ります。
私はまだまだ、人間的にも未熟で、考え方も浅いですが、会長・社長の願われる
理想の会社を目指し、隊員一同、協力し合い、頑張っています。
今回 参加させて頂き、本当に良かったです。今後共、御指導宜しく願います。

以上



No. _____

平成24年10月17日

舞子高校 環境防災科 見学

甲南病院警備隊

隔谷 義弘

平成24年10月12日(金) 12:55 校長室にて校長先生の挨拶から環境防災科の説明がありました。

阪神・淡路大震災から17年、今年で設置10年の全国唯一の環境防災科とは? という疑問から始まり諏訪先生から災害の科学的知識、命の大切さ助け合いボランティアや地域との連携などの学習教育とのおこしげがあり、災害の科学的知識「生き残るための教育」だけでなくボランティアのように「支援者となるための教育」つまり今後のリーダー育成の場であり、活動の評価よりコミュニケーション脳力が鍛えられていくことがプラスになっていることを強調されていました。

被災地に行った生徒たちに対して先生方はポジティブに接しあげないといけない、活動できる場所を作ることが先生がしなければいけないとおっしゃっていました。

私たちも、仕事に対し何が起っても、何を言われてもポジティブに行動出来るよう普段からシミュレーションし動けるようにしていきます。彼・彼女らはボランティアでアマチュアであり、私たちはプロです。彼らに出来ないことをし、やり遂げることが業務になっている。今後も現場にて、業務に対応できる知識、活動をスタッフ全員で話し合い確認しながら、ポジティブに業務遂行していきます。



報 告 書

平成24年10月13日

松友社長 様

舞子高校環境防災科見学の件

今回、環境防災科見学に参加させて戴き、久ぶりに若い力の集団に感激いたしました。基本の挨拶、自分の考え(意見)を堂々と発表する等、その中でも自分の進む方向性(目的意識)を持って、一步一步進んでいると感じました。

又、環境防災の学習は防災のみならず、色々な学習に関係してる事をあらためて思い直しました。特に重要な点はコミュニケーション(力)で、これなくしては前向きに進む事も難しく地域社会に浸透するには必須と考えます。

我々の業務にあてはめてみても、同じ事が言えると思います。目的意識(どのようにすればいいか)、対人関係(コミュニケーション)を大事にして組織力アップには、「キズのなめあい」はやめて、プロとして堂々と業務を遂行して行く事が大切であると考えます。

今回は若い頃を思い出す、又初心を思い起こして心新たに頑張ろうという気持ちになった見学でございました。大変、感謝いたしております。

今後共、色々な体験をさせて戴き、微力ながら力を注いで参りたいと考えております。御指導宜しくお願い致します。

以上

ニチイ学館 神戸PIC警備隊
谷村 哲昭